

婦人科腹腔鏡手術後の整容性に関する後方視的検討

研究責任者 婦人科統括部長 黒土升蔵

(1) 概要

腹腔鏡手術は不妊症診療における外科的なアプローチとして重要である。その利点として低侵襲性と整容性が挙げられる。整容性については、開腹手術による大きな傷と比べれば、腹腔鏡手術における数カ所に分散した小さい傷の方が整容的であると言える。しかし、この小さい傷もケロイド状に肥厚したり、色素沈着を起こしたりすると、かえって整容性を損なう結果ともなりうる。とりわけ、不妊症診療では20歳代から40歳代までの比較的若い女性患者が腹腔鏡手術を受ける対象となるため、術後創部の整容性にも十分な配慮が求められる。

これまでも術後の整容性に関する報告はなされてきたが、その多くは医療者側の主観的なものであり、患者自身の評価を行っているものは少ない。当科では、患者サービス向上の一環として、術後創部の状態に関するアンケート調査を行ってきたが、術後の創部の整容性の改善を目的に2020年1月よりアトファインTM(ニチバン株式会社)の使用を推奨してきた。

今回、我々は、アンケート調査の結果を集計し、統計学的検討を加えることにより、患者自身による創部評価を基に、アトファインの有効性と婦人科腹腔鏡手術後創部の整容性について検討した。

その結果、アトファインを使用した群では、「盛り上がり」において、中央値[最小値-最大値]の順でアトファイン使用群2 [1-8] vs 非使用群3 [1-10] (P=0.047)で有意に低い点数であった(表2)。「痒み」においては使用群3 [1-9] vs 非使用群2 [1-8] (P=0.018)で有意に高い点数であったが、アトファイン貼付に起因する痒みと考えられ重篤な接触皮膚炎をきたす症例はなかった。「痛み」「赤み」「硬さ」「違和感」については本検討では両群に有意差を認めず、「総合満足度」においても同様であった。

「盛り上がり」は肥厚性瘢痕やケロイドの主要所見であり、整容性に影響を与える重要なファクターといえる。アトファイン使用群では貼付に伴う接触性皮膚炎に起因する「痒み」が有意に高かったが、貼付期間の短縮や痒み止め処方等の痒み対策を講じることにより、創部そのものの満足度に対しても高い評価

を得ることは可能であり、術後の整容性改善においてアトファインに代表される織布テープを用いた創部管理法の妥当性を導くことができると考えられた。

(2) 研究対象者 婦人科腹腔鏡手術後患者

(3) 実施方法 アンケート調査の集計と統計学的検討

(4) 医学的・倫理的配慮について

過去のデータの総数を後方視的に分析するものであり、人権擁護について特別な必要性はない。手術同意書内の書面にすでに同意を得ているが、当院のホームページ上においても、オプトアウトを行い、研究への協力の撤回がいつでもできるようになっている。(http://www.tokonamecityhospital.jp/gynecology/surgery/1497.html)。過去のデータの総数を後方視的に分析するものであり、象者への不利益及び危険性はない。また、この分析により術後の創部の整容性向上に貢献できると予測される。

[参考文献]

1) Chae, JK., Kim, JH., Kim, EJ., Park, K. : Values of a Patient and Observer Scar Assessment Scale to Evaluate the Facial Skin Graft Scar. Ann Dermatol., 8:615-623, 2016.

2) Draaijers, LJ., Tempelman, FR., Botman, YA., Tuinebreijer, WE., Middelkoop, E., Kreis, RW., van Zuijlen, PP. : The patient and observer scar assessment scale: a reliable and feasible tool for scar evaluation. Plast Reconstr Surg., 113:1960-1965, 2004.

3) 形成外科診療ガイドライン., pp. 146, 金原出版, 2015.

4) Ekin, M., Dagdeviren, H., Caypinar, SS., Erdogan, B., Ayag, ME., Cengiz, H., Yasar, L., Helvacioğlu, Ç.: Comparative cosmetic outcome of surgical incisions created by the PEAK Plasma Blade and a scalpel after cesarean section by Patient and Observer Assessment Scale (POSAS): A randomized double

blind study. *Taiwan J Obstet Gynecol.*, 57:68-70, 2018.

5) Fleisher, J., Khalifeh, A., Pettker, C., Berghella, V., Dabbish, N., Mackeen, AD. Patient satisfaction and cosmetic outcome in a randomized study of cesarean skin closure. *J Matern Fetal Neonatal Med.*, 32:3830-3835, 2019.

6) Miremberg, H., Barber, E., Tamayev, L., Ganer Herman, H., Bar, J., Kovo, M. When is the right time to remove staples after an elective cesarean delivery?: a randomized control trial. *J Matern Fetal Neonatal Med.*, 21:1-6, 2019.

7) Yang, J., Kim, KH., Song, YJ., Kim, SC., Sung, N., Kim, H., Lee, DH. Cosmetic outcomes of cesarean section scar; subcuticular suture versus intradermal buried suture. *Obstet Gynecol Sci.*, 61:79-87, 2018.

8) Boza, A., Urman, B., Vatansever, D., Ceyhan, M., Mısrıtoğlu, S., Koca, S., Çapraz, K., Tunga Dogan, A., Taskiran, C. Mini-Laparoscopic Gynecological Surgery Using Smaller Ports Minimizes Incisional Pain and Postoperative Scar Size: A Paired Sample Analysis. *Surg Innov.*, 27:455-460, 2020.

9) Cromi, A., Ghezzi, F., Gottardi, A., Cherubino, M., Uccella, S., Valdatta, L. Cosmetic outcomes of various skin closure methods following cesarean delivery: a randomized trial. *Am J Obstet Gynecol.*, 203:36.e1-8, 2010.

10) Sangnier E, Lallemand M, Gnofam M, Bednarczyk L, Mereb E, Graesslin O, Moussy-Berteaux P. Single port laparoscopy (SPL): Retrospective study evaluating postoperative pain in comparison with conventional laparoscopy (CL). *J Gynecol Obstet Hum Reprod.*, 47:365-369, 2018.

11) 小川貴博・新田正広・河村好章・長谷川政徳・小路直・宮嶋哲：LESS手術教えます「私はこう教えている」。日本泌尿器科内視鏡学会雑誌, 33: 202-205, 2020.

12) 関典子・假谷奈生子・小池浩文・太田友香・江尻孝平・坂口幸吉・井上誠司・平野由紀夫：単孔式腹腔鏡手術が有用と考えられた卵巣嚢腫合併妊娠の1例。現代産婦人科, 69: 63-67, 2020.